

視野を広く持つこと

中国学生卓球連盟 幹事長 笹谷宙未

この度は、日学連アゴラに文章を掲載していただけることに、この場をお借りして感謝申し上げます。

私は中国学連幹事長という立場になって、幹事長としての大切な仕事である、人に指示を出すことの難しさを感じました。指示を出すためには、全体の仕事を把握することが必要です。大会前には要項を作成するところからプログラムの作成依頼、申し込み締め切り日の決定、組み合わせの作成など、色々なことを連携させてスケジュールを決めなければいけません。人に指示を出すためにはこのようなことをすべて把握して初めてできることだと分かりました。さらに、1つの大会を開催することがこんなにも大変なのだということを身に沁みて実感し、今まで自分のやってきた仕事は大きな仕事の一部分にすぎないということにも気づかされました。

また、学連の仕事を通して世間を知り、視野を広げるきっかけになりました。今年は第19回全日学選抜が中国学連主催だったということもあり、初めての全国規模の大会を経験しました。そこで卓球関係者をはじめ、大人の方々と関わる機会が多くありました。その中で、名刺交換の仕方からメールを送る際のマナー、人との接し方など、社会人のマナーを学ぶことができました。

全国大会は中国大会の開催とは比べ物にならないほど多くの仕事があり、全てを把握することはできていませんでした。しかし、私がやっていない仕事もいつの間にか着実に進んでいて、学連全員の協力により無事大会を成功できました。この仕事を通して、自分の見えないところで多くの方がはたらいているということを実感し、今まで着目してこなかったところにも着目できるようになりました。

これからは人のさりげない気遣いや、普段なら目に留まらないようなものにも着目できるような広い視野をもって生活することを心がけたいと思います。

幹事長という役職を経験できて、また、第19回全日学選抜という大会を経験できて本当に良かったです。

最後までお読みいただきありがとうございました。